

公文書からみる

戦後山口県の病院設置と地域の声

—災害がまちを襲ったあとで—

館員 真木奈美

はじめに

地域における病院の設立と背景を示す当館所蔵の歴史的な公文書

* 医療機関整備審議会の会議録、会議資料など

* 病院設立を求める陳情書

→ 地域医療の危機は歴史的に経験されたこと

1. 戦災のあと—徳山博愛病院の設立—

〈 徳山博愛病院 〉 昭和22年(1947)に徳山市(現周南市)で設立

* 空襲による医療機関被災…市内医師らが働きかけオープンシステムを採用して設立

* 昭和23年に徳山標準保健所の附属施設として位置づけられる

* 徳山博愛病院運営委員会(会長は地元企業社長)に運営を業務委託

* 戦前からの豊富な医療資源を前提として、戦後いち早く医療・福祉ニーズに対応した医療サービスを提供

2. 自然災害のあと—玖珂郡北部への病院設立を求めて—

〈 ルース台風 〉 昭和26年(1951)10月14-15日に山口県内を横断

* 玖珂郡北部(現岩国市)で多くの被害…診療所や隔離病舎の多くも被災

* 山口県内の病院の偏在…玖珂郡北部は無病院地区

* 日本赤十字社の医療機関設置を求める陳情書(玖珂郡町村・日本赤十字社山口支部)

・ 自然災害後の医療救護＝「最も急を要する問題」

・ 玖珂郡北部で重症患者発生時の時間的・経済的負担

・ 恒久施設としての医療機関の設置が与える住民への「安全感」

おわりに

* 明治以降の病院供給史

・ 開業医中心

・ 地域の医療需要を反映

山口県の事例：熊毛郡・玖珂郡・大島郡の医療利用組合が合同して周東病院を
設立(昭和14/1939)

* 災害のあと(＝医療の必要性が高まった時)、地域課題に即して病院設立が求められた様子→公文書から浮かび上がる

【 参考文献 】

- 猪飼周平(2010)『病院の世紀の理論』有斐閣
- 金田治也(1978)「我が国におけるオープン病院概念の展開」『医学史研究』50,60-64
- 川上武(1965)『現代日本医療史』勁草書房
- 庄司忠(1972)『岩国市並に錦川沿線風土誌稿 上』岩国病院
- 杉山章子(1995)『占領期の医療改革』勁草書房
- 高岡裕之(2010)「近代日本の地域医療と公立病院」『歴史評論』726,63-74
- 高岡裕之(2011)『総力戦体制と「福祉国家」一戦時期日本の「社会改革」構想』岩波書店
- 徳山医師会(1986)『オープンシステム徳山医師会病院 二十周年記念誌』
- 長田昇編(1974)『徳山医師会史 下』徳山医師会
- 中村一成(2021)「近代日本の農山村における病院医療供給と地域社会一名望家から産業組合へ」『歴史と経済』234,1-17
- 日本赤十字社山口支部(1991)『百年のあゆみ 日本赤十字社山口支部』
- 山田友紀(2009)「医師・三宅栄次小伝ーオープンシステム病院・徳山博愛病院設立者ー」『山口県地方史研究』101,64-68
- 山田友紀(2020)「まちから『病院』が消えた日～戦後徳山市における地域医療再建の歴史ー一九四五ー一九六六～」『山口県地方史研究』123,77-90
- 脇英夫ほか(1989)『徳山海軍燃料廠史』徳山大学総合経済研究所